

随 想

近頃、輸入の航空貨物に野菜や切花が多い。おもに東南アジアからだが、切花は遠くイスラエルやニュージーランドからも来ており、大げさに言えば、花卉園芸も国際競争の場に立たされていることになる。高い市場価格、つまり高い石油と労働力とに負うところが大きく、今後経営・技術ともに改善を要する点が多い。

花卉園芸や施設園芸の技術は、近年わが国でも急速に進歩しており、例えば、生育・開花調節の技術は欧米のそれと比べて遜色がないし、育種面でのそれはキクなどでたいへん注目されている。施設の環境調節でも、すでに大幅な省エネルギーに成功している。これらは、もとより試験場や関連業界の努力に負うところが大きい、その成果を受け入れる花卉生産者のレベルアップも見逃すことはできない。

自由競争に生き抜いてきた花卉生産者は、新しい品種や技術の導入に熱心で、自ら欧米の生産現場に触れてくる人が多い。それだけに、経営的にも他部門にないユニークな面が見出される。例えば、多くの雇傭労力を入れたり、技術者に経営の一部を持たせたり、なかには洋ランの種苗生産で海外に分園を設けた例もある。

このような経営のやり方に対して、農業ではないというような見方もあるが、その当否は別として、結果として農村を守るに役立っているのではないか。

最近農家子弟の大学への進学率が高くなった。当方でも園芸関係に後継者が多い。若い世代による技術・経営の革新に期待している。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事
東京 農 業 大 学 教 授 阿部定夫〕

目 次 (第15巻第3号)

水田用除草剤試験研究のあれこれ…………… 2

＜農事試験場作物部 宮原益次＞

1. は じ め に…………… 2
2. 2,4-Dのころ…………… 2
3. 土壌処理剤の試験研究に関連
して…………… 2
4. 多年生雑草対象除草剤について…………… 4
5. お わ り に…………… 5

暖地におけるばれいしょ栽培と雑草

防除…………… 6

＜長崎県総合農林試験場 鶴内孝之＞

1. は じ め に…………… 6
2. 暖地におけるばれいしょ栽培
の特色…………… 6
3. 栽培法と雑草発生の実態…………… 7
4. 雑草の防除法…………… 10

外国文献抄録

池沼における除草剤の消失…………… 11

昭和55年度常緑果樹関係除草剤・生

育調節剤試験成績概要（追補）…………… 15

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞

表紙の写真は、カタバミの種子表皮細胞を走査電子顕微鏡で撮影したもの、
亀甲突起型、4000倍。

〔写真提供者；笠原安夫氏〕